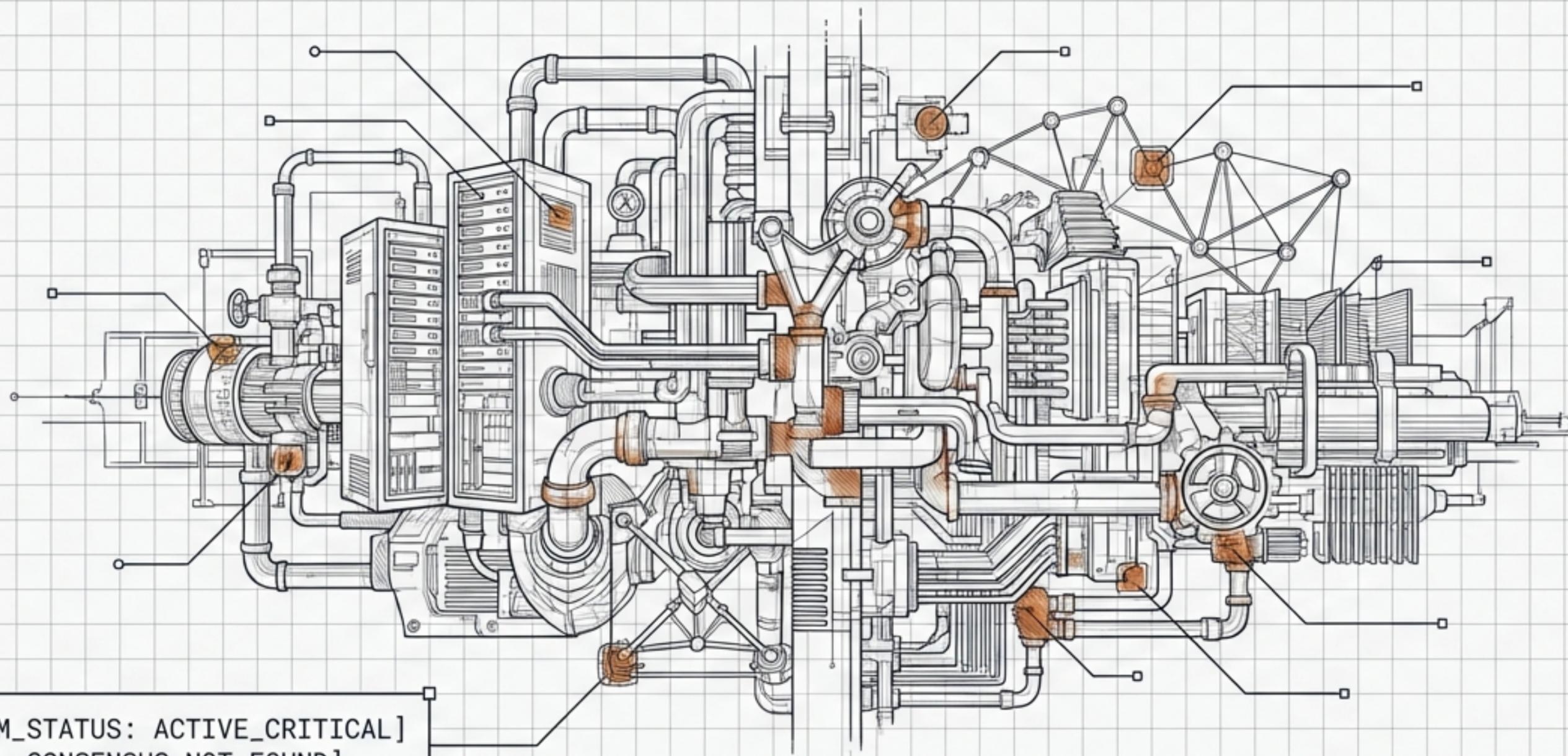


惰性 — 誰も信じていないのに続いてしまう文明

耐久文明論 第三部 第6論：システム延命の構造的解剖



```
[SYSTEM_STATUS: ACTIVE_CRITICAL]
[ERROR: CONSENSUS_NOT_FOUND]
```

「惰性」は人間の怠慢ではない。 システムの死後硬直である。

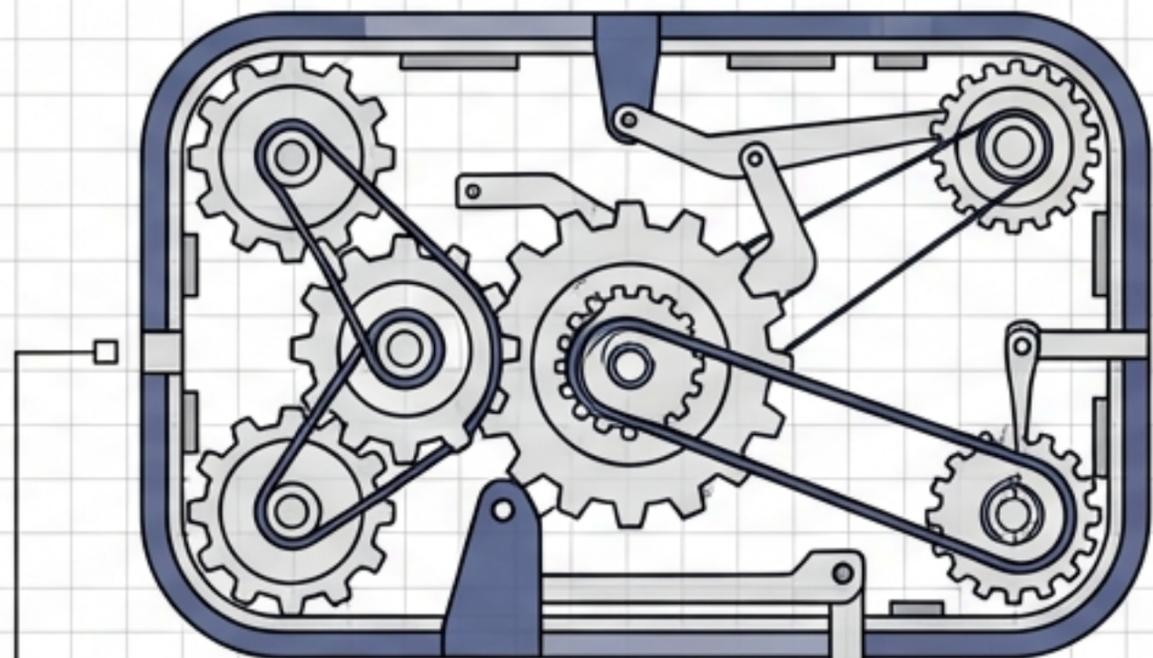
[PSYCHOLOGICAL_ERROR]



誤認

制度が続くのは、人間が怠けているからだ。

[STRUCTURAL_REALITY]

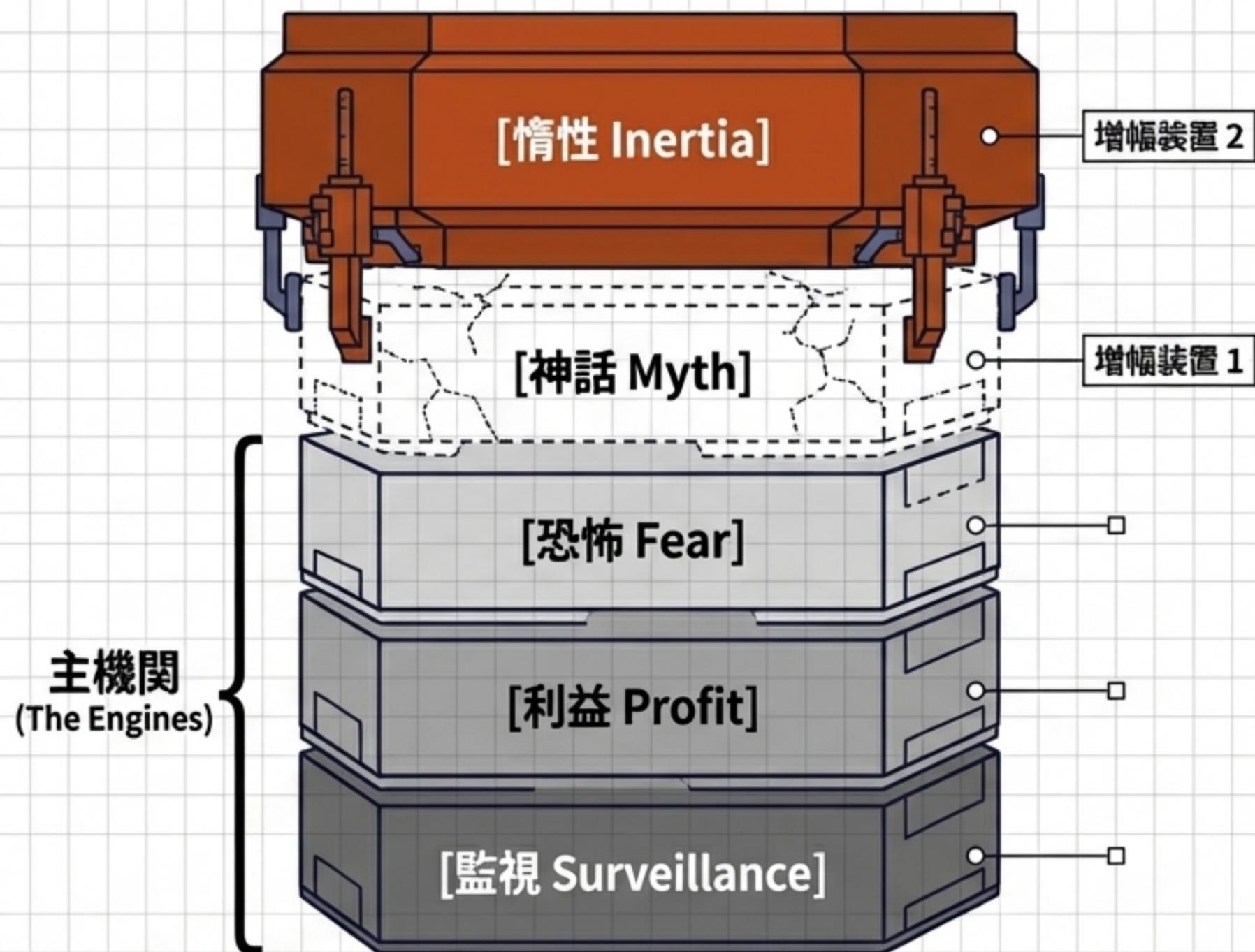


構造的眞実

惰性とは、意味と目的がやせ細った後にも、既設の制度、手続き、インフラが相互に支え合い「運動だけが持続する構造」である。

誰も全面的に支持していない秩序が、なぜ止まらないのか。問題は精神ではなく、配置（構造）にある。

耐久文明の5層アーキテクチャ： 合意なき延命のメカニズム



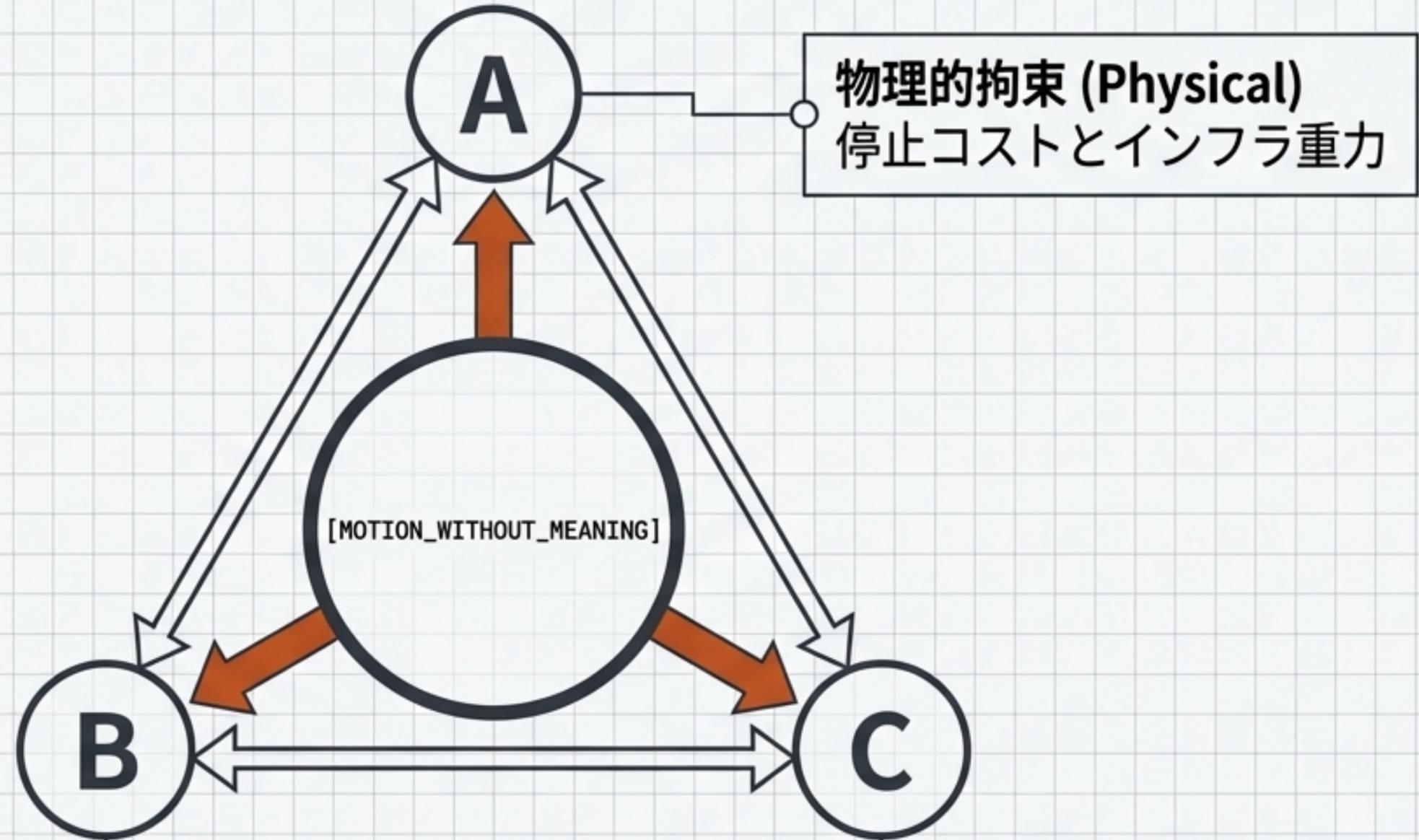
- 合意（納得）が崩壊した社会は、直ちに終わるわけではない。
- 下層の「3つの主機関（恐怖・利益・監視）」が基礎代謝として社会を動かす。
- 上層の「神話」がそれを意味づけるが、それすら剥落した末期に現れる最終延命装置が「情性」である。

OS診断：目的駆動から「惰性駆動」への反転

	[OS_VERSION: CONSENSUS] 目的駆動 (Purpose-Driven)	[OS_VERSION: INERTIA] 惰性駆動 (Inertia-Driven)
存在理由	外部の目的（世界を変える・解決する）のため。	制度そのものの「存続」が最優先目的になる（制度の自己目的化）。
評価基準	目的にどれだけ接近したか（有効性）。	支障なく継続しているか（継続可能性）。
問いの性質	「なぜこれを行うのか？」	「なぜこれを止めるのか？（止めるとことへの過剰な立証責任）」
運動の正体	前進するための運動。	停止を避けるための「自動運転（官僚制と手続き）」。

惰性を駆動する3つの重力：なぜ止める方が難しいのか

惰性は「弱い力」ではない。文明を物理的・心理的・システムの的に拘束する極めて重い力学である。

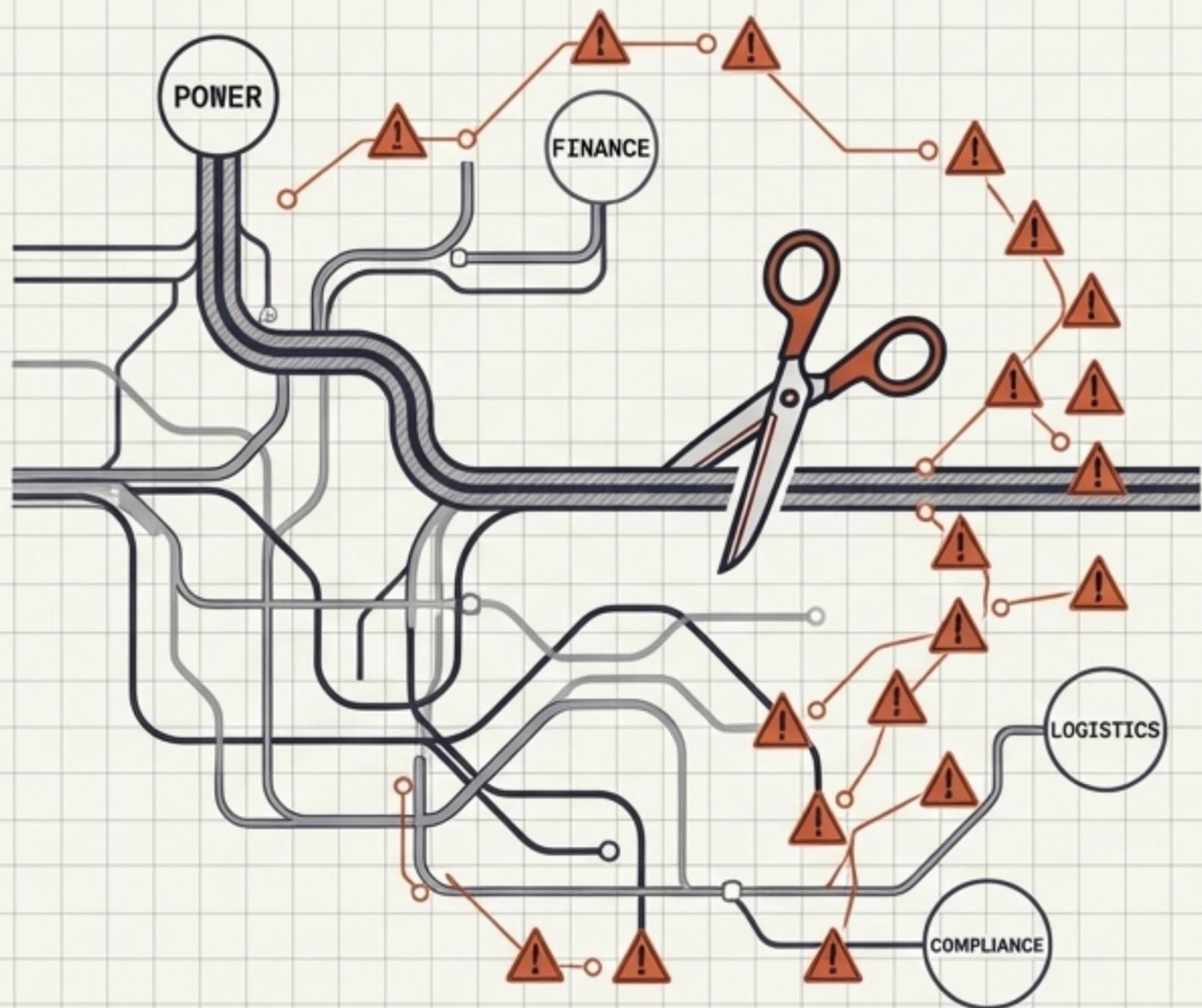


心理的拘束 (Psychological)
サंकコストと残留合理化

物理的拘束 (Physical)
停止コストとインフラ重力

システムの拘束 (Systemic)
責任蒸発と無主的秩序

力学 A：停止コストとインフラ重力



止める方が高い

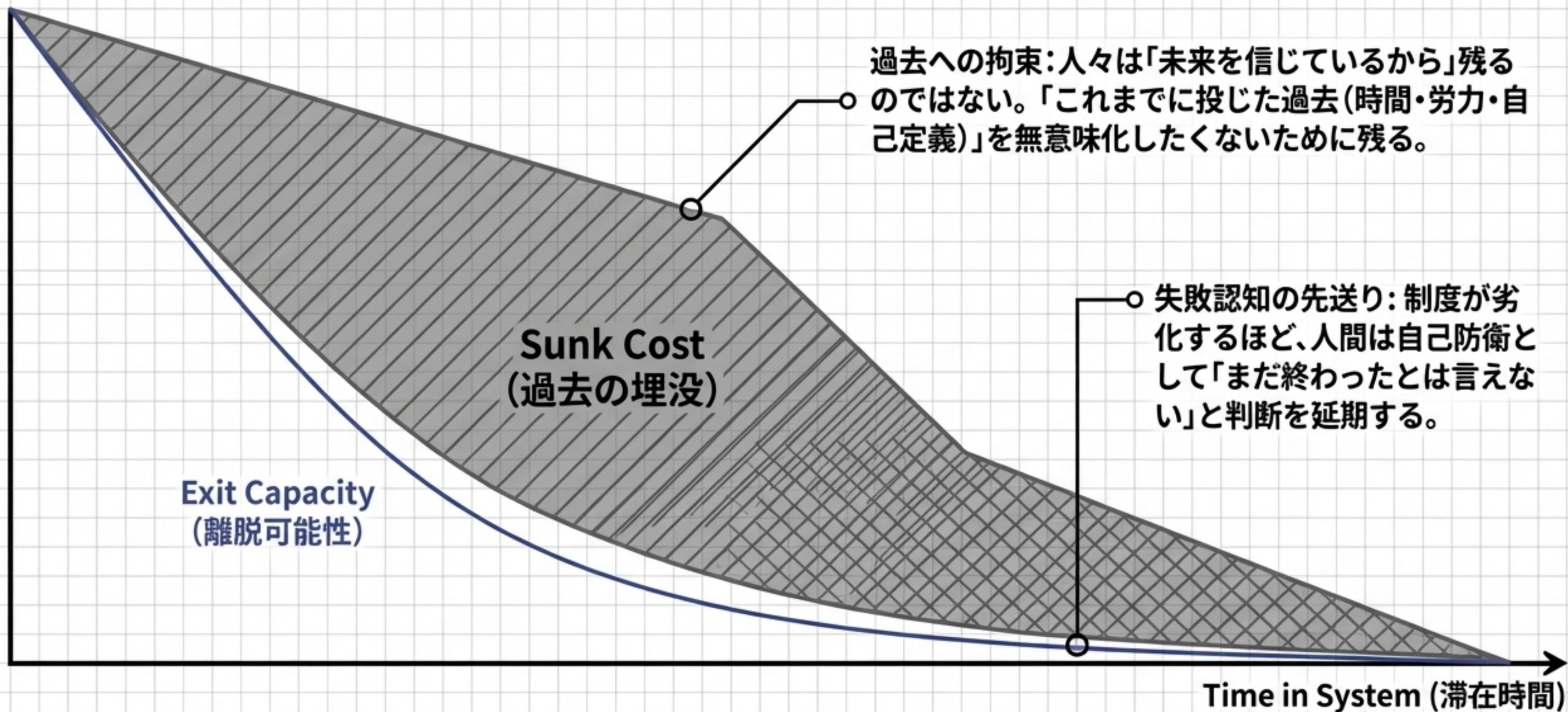
制度がインフラ化すると、それを停止することは単一の装置を止めることではなく、社会の接続全体を揺らすことを意味する。

合理性の反転

劣化した制度の改修よりも、「短期的崩壊を回避するための継続」が合理的な選択となる。

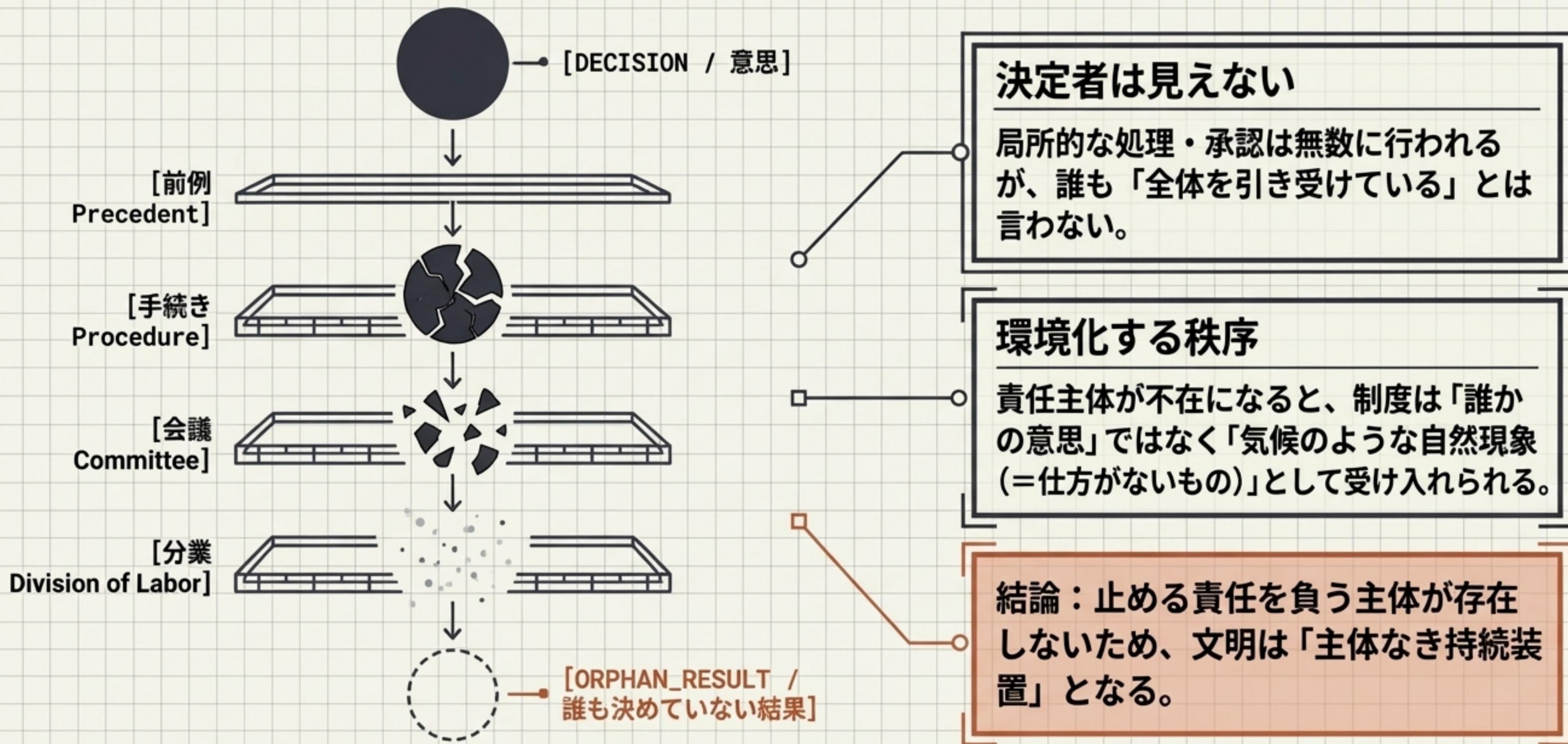
結論：壊れていないから続くのではない。壊れたままでも動かす方法だけが蓄積していく。

力学 B：サunkコストと残留合理化の遅延構造

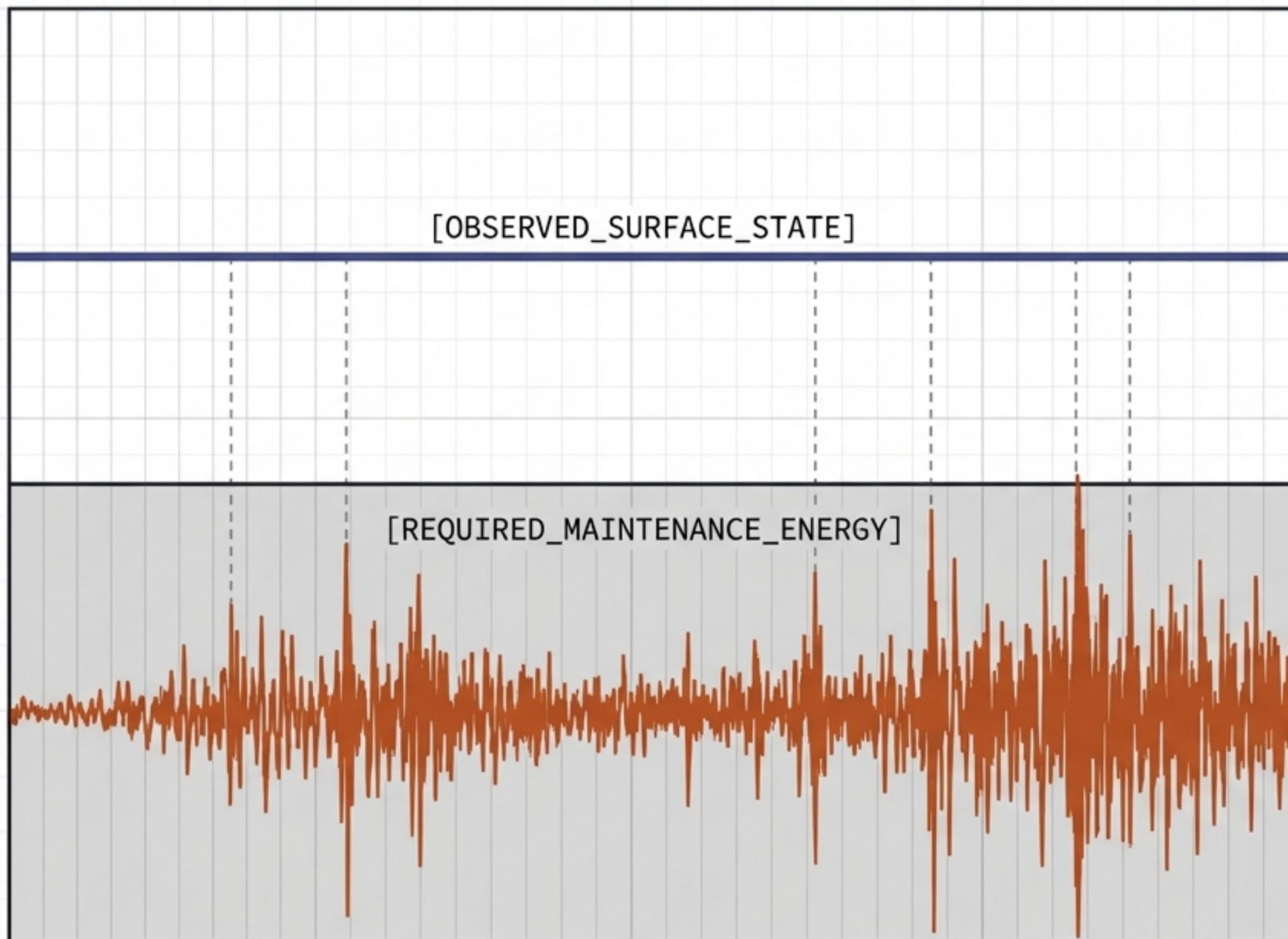


結論: 惰性は、人々の人生の総量を担保にとり、自由な再選択を遅延させる。

力学 C：責任蒸発 —— 「誰も決めていない」 無主的秩序

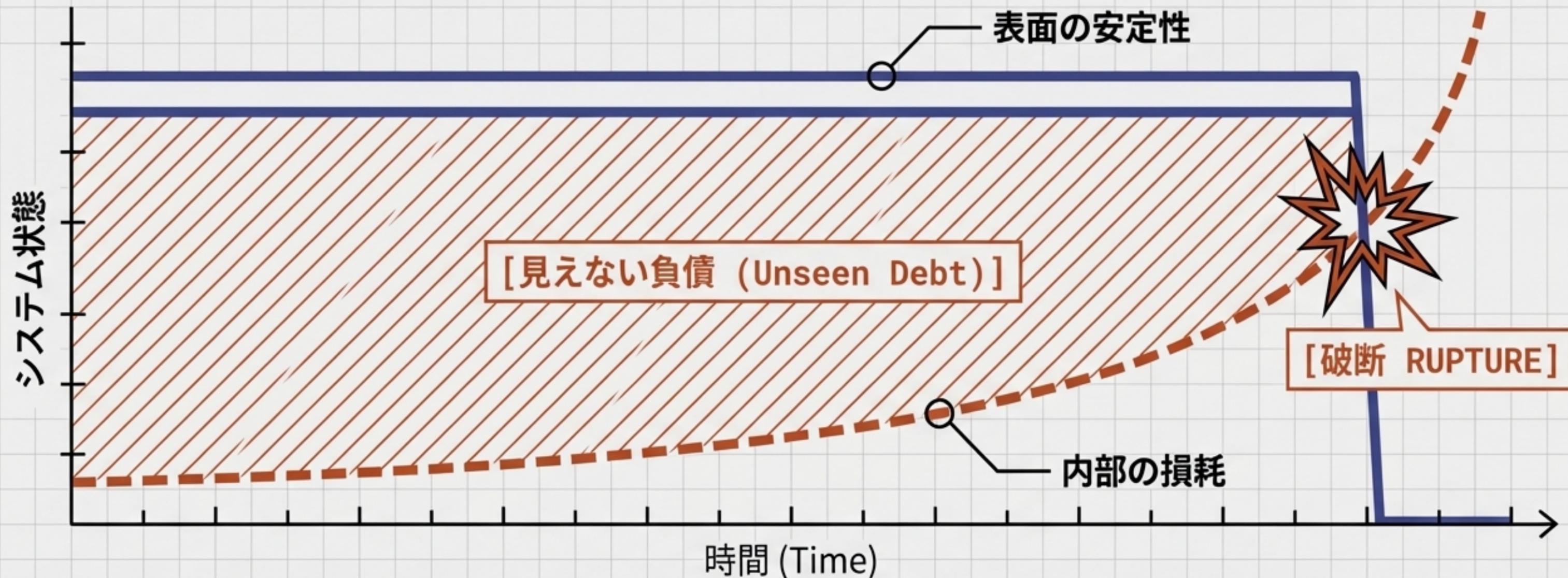


低出力安定相の罟：なぜ情性は「安定」に見えるのか



- 最小出力の持続: 情性は、熱狂も、理念も、新しい合意も必要としない。昨日と同じ「習慣」と「反復」を流用するだけで、極めて安価に秩序を保つ。
- 摩擦の欠如: 大きな変化を起こす出力（エネルギー）が社会にないため、表面上は波風が立たず、平和で安定しているように見える（低出力安定相）。
- 結論: 安定しているのではない。「変化し、修復するためのエネルギー」を失って静止しているだけである。

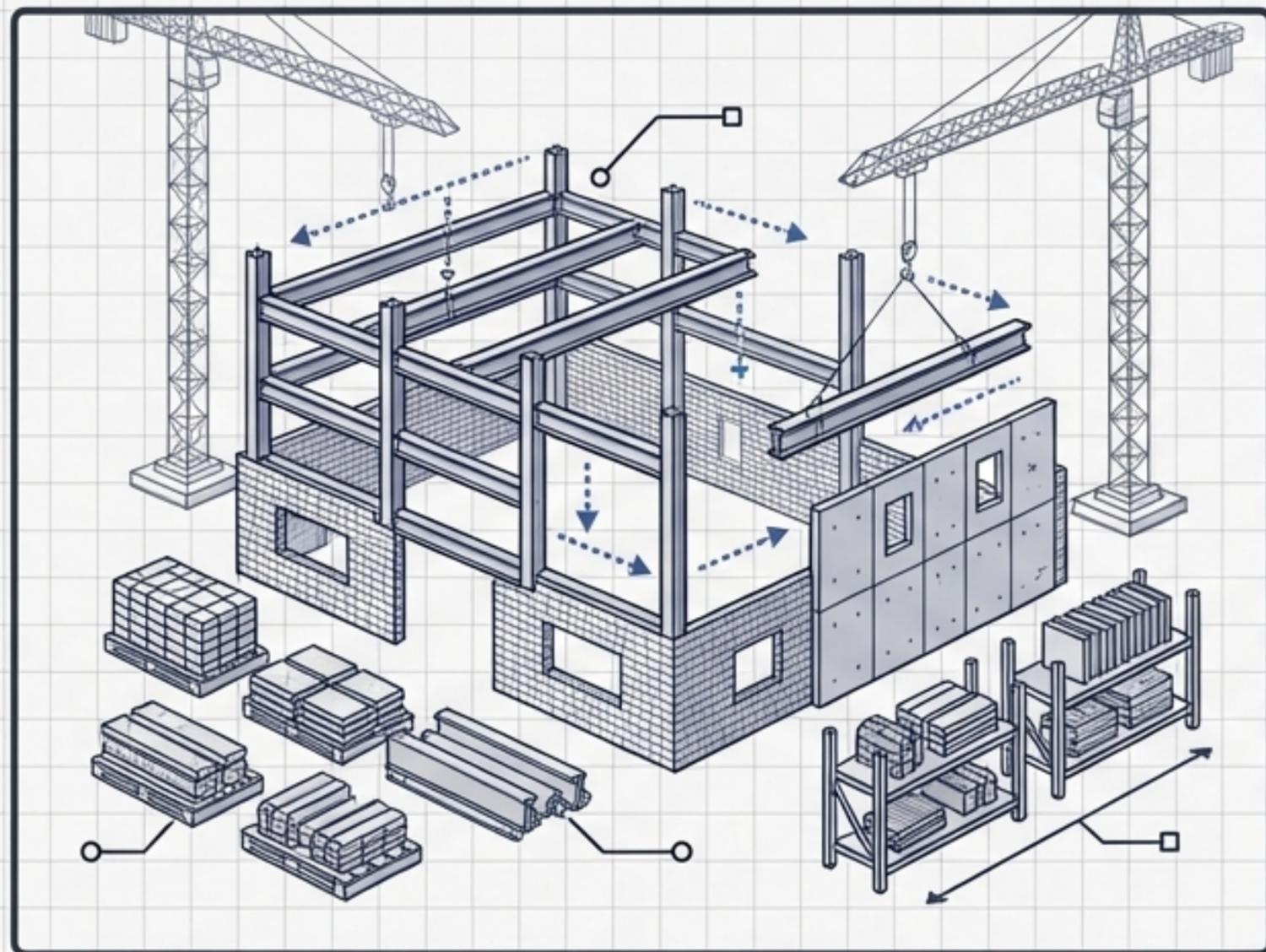
惰性の限界：損耗の蓄積と「突然の破断」



惰性は制度を動かし続けるが、「修復」はしない。例外処理や疲労などの「ノイズ」は解消されず、内部へ沈殿していく。

破断は、外からの突然の一撃ではない。内部で長く蓄積していた損耗が、限界を超えて一気に露出する現象である。

惰性の真の代償：再起動可能性（Bootability）の喪失

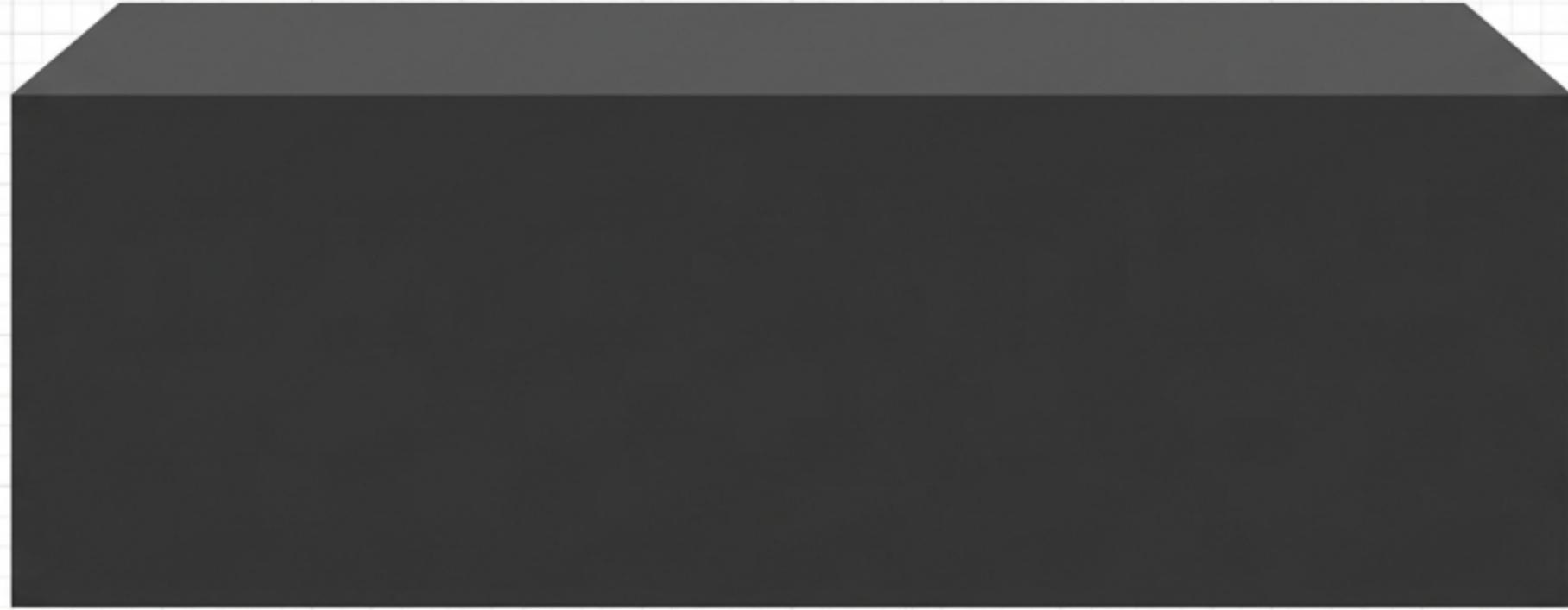


[正常な停止 Normal Shutdown -> 再起動可能 Rebootable]

[惰性の末路 End of Inertia -> 再起動不可能 Un-rebootable]

- 惰性の本当の危険は、単に「長く続くこと」ではない。長く続くことで、次にやり直すための資源（記録、責任の痕跡、運用知、信頼）を水面下で食いつぶすことである。
- 惰性は崩壊を防いでいるように見えて、実は「延命と引き換えに、再生能力を売り渡している」。

結章：続いてしまうこと、それ自体が危機である



- 情性支配の制度とは、正しさによって維持される制度ではない。
- 裸の強制すら更新されず、意味づけすら弱まり、それでも「形式」だけがなお持続する制度である。
- 文明が生きている証拠ではない。「長く壊れたまま動き続けている」という事実が、最も見えにくい形で保存されている状態である。

■ [ACTION_REQUIRED: CEASE_AUTOMATIC_CONTINUATION]
[INITIATE_MANUAL_REBOOT]